

授業科目名 科目コード	経営分析 (Business Analysis) 2037233-109					担当教員	喬 雪氷 (キョウ セツヒョウ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	3年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要
経営分析とは、公表された財務諸表や報告書を対象に数値を解釈したり、比率等を使用したりして、数値の背後に隠されたものを推理することを通して企業の実態を明らかにする会計学の専門分野をいう。本講義はケースを用いながら、数字の奥に潜む事実を見極める能力を高め、財務諸表分析の手法を習得することを目標とする。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力
③ 授業の進め方・指示事項
各回の講義前に、指定する範囲について教科書を必ず一読する。事後学習に関しては、毎回配布するレジュメを復習する。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
簿記・会計関連の科目を履修していることが望ましい。
⑤ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 貸借対照表分析における各指標・比率の意味を理解し、事例を使い説明することができる。 (ii) 損益計算書分析における各指標・比率の意味を理解し、事例を使い説明することができる。 (iii) 現金の流れに関連する各指標・比率の意味を理解し、解釈することができる。
⑥ テキスト (教科書)
林總(2019)『経営分析の基本』同文館出版
⑦ 参考図書・指定図書
桜井久勝 (2020)『財務諸表分析 第8版』中央経済社 岡本治雄 (2018)『会計記号と企業分析』唯学書房

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 貸借対照表分析	貸借対照表分析における知識を応用し、会社の事例を分析することができる。	貸借対照表分析における各指標・比率の意味を理解し、事例を使い説明することができる。	貸借対照表分析における各指標・比率を使い、B/Sの一部を解釈することができる。	貸借対照表の各数字の意味を理解し、指標・比率を説明することができる。	貸借対照表の各数字・指標・比率の意味を説明することができない。
(ii) 損益計算書分析	損益計算書分析における知識を応用し、会社の事例を分析できる。	損益計算書分析における各指標・比率の意味を理解し、事例を使い説明することができる。	損益計算書の分析における各指標・比率を使い、P/Lの一部を解釈することができる。	損益計算書の各数字の意味を理解し、指標・比率を説明することができる。	損益計算書の各数字・指標・比率の意味を説明することができない。
(iii) キャッシュフローの動態分析	キャッシュフローに関連する指標・比率を応用し、会社の事例を分析することができる。	現金の流れに関連する各指標・比率の意味を理解し、解釈することができる。	キャッシュフロー計算書の構造および各項目の概要を解釈することができる。	キャッシュフロー計算書の構造を説明することができる。	キャッシュフロー計算書の構造を説明することができない。

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%					40%		100%
(i) 貸借対照表分析	20%					20%		40%
(ii) 損益計算書分析	20%					10%		30%
(iii) キャッシュフローの動態分析	20%					10%		30%
フィードバックの方法	毎回、講義のポイントと専門用語をまとめるプリントを配布し、書き込み欄と穴埋め箇所を設けることにより、学習した内容を再確認し知識を深める。随時小テストを実施し、採点后、解説の時間を設ける。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
松下幸之助や稲盛和夫のような名経営者たちは、財務諸表が読めるだけでなく、財務諸表を分析して、経営に潜む異常点を見つけ出し、しかるべき手を打ってきたと言われる。数字の奥に潜む事実を見極

める能力こそが、経営者にも、経理担当者にも、そしてすべてのビジネスパーソンにも必要である。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	ガイダンス：第1章 経営分析とは 財務諸表3表の構造	教科書 pp. 12～28 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分
2	第2章 貸借対照表分析① 貸借対照表の構造・資本の調達源泉	教科書 pp. 30～41 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分
3	第2章 貸借対照表分析② 資本の運用形態・ビジネスの基盤（固定資産）	教科書 pp. 42～53 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分
4	第2章 貸借対照表分析③ 貸借対照表分析で使われる指標	教科書 pp. 54～67 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分
5	第2章 貸借対照表分析④ 日本航空の事例・ROA・ROE	教科書 pp. 68～84 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分
6	第3章 損益計算書分析① 利益とは・利益の各概念	教科書 pp. 86～96 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分
7	第3章 損益計算書分析② 管理会計特有の利益概念・利益率分析	教科書 pp. 97～109 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分
8	第3章 損益計算書分析③ 損益分岐点分析・シャープの事例	教科書 pp. 110～122 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分
9	第3章 損益計算書分析④ ・ホテル業と自動車メーカーの特徴	教科書 pp. 123～136 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分
10	第4章 キャッシュフロー計算書分析① キャッシュフロー計算書の構造	教科書 pp. 138～144 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分
11	第4章 キャッシュフロー計算書分析② アップルとシャープの比較	教科書 pp. 145～153 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分
12	第5章 生産性分析 付加価値生産性・生産性指標の種類	教科書 pp. 156～166 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分
13	第6章 キャッシュフローの動的的分析① 餃子の王将とひらまつとの比較	教科書 pp. 168～174 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分
14	第6章 キャッシュフローの動的的分析② アップル・ソニー・パナソニックの比較	教科書 pp. 175～185 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分
15	第7章 株式投資分析・株式分析指標	教科書 pp. 188～195 を読んでくること。 配布したプリントを復習する。	60分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。授業の内容を基に、毎回配布するプリントに内容のまとめ（空欄補助など）を行い、復習し、学習内容をフィードバックする。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性